

高精度電磁探査装置

# 深度1500m対応 日さくが導入



高精度電磁探査装置導入により調査事業を拡充する

【やじたま】日さく(やじたま市大宮区、若林直樹社長、048・644・2101)は、深度1000～1500m程度の大深度探査向けに高精度な「電磁探査(CSMT)装置」を導入した。探査に使う周波数の数を従来装置の約2倍の26とし、地下構造の解析精度を向上した。全地球測位システム(GPS)で送信時刻と受信時刻を同期し、測定時間も従来機の3分の1に短縮する。温泉や地下水などの「調査事業」を拡充、3年後の同事業売上高で現状比20%増の約10億円を目指す。

## GPS同期測定時間1/3

CSMT装置は、地表面から1000～1500m程度までを示し、リング調査など掘削しなくても、地下の地質構造を把握できる。調査地点の地下の比抵抗値を、離れた送信地点の電場、磁場から測定する。そこから地質の構造や地下水、温泉の有無などを推定する。

日さくは調査部門で今回、新たな装置などに計3000万円の設備投資を行った。新装置で探査に用いる周波数の数を倍増したことで従来より細かくデータを取得し、地下の地層を細分化する。測定時間の短縮は、送信される時間ごとに変化する周波数を的確に受信することで実現する。

同社はさく井、土木などを手がけ、2017年3月期売上高は約47億円で、3年後に約60億円に引き上げる計画。現状で、調査事業は全売上高の6分の1程度を担う。